



## 平成25年度の試験研究課題について

本年度に実施する試験研究課題および各課題の開発目標は以下のとおりです。これらは昨年から公募・採択された、産地や地域からの要望課題と委託された研究課題です。  
(表紙に関連写真を掲載)

◎スターチス新品種の育成(平成24～26年)

- \*ブルー、ピンク系品種の緊急育成

◎スターチスの新電照栽培技術の開発(平成24～26年)

- \*スターチスの光質別照射反応の解明
- \*新光源の夜間照射による増収技術

◎エンドウの長期安定増収技術の開発(平成25～27年)

- \*養分の移動や分配を解明した増収技術
- \*土壌管理による長期の草勢維持技術

◎特産花き・野菜のオリジナル品種の育成(平成25～27年)

- \*実エンドウの短節間省力品種の育成
- \*イオンビーム照射による変異誘発育種  
スターチス無花粉品種の作出など
- \*県育成優良種苗の維持・増殖・配布  
イチゴ、エンドウ、地域特産品目

◎高糖度ミニトマトの安定生産技術の開発(平成25～27年)

- \*葉かび病耐病性で高品質な品種の選定
- \*栽培・管理法の改善による裂果の防止

◎主要花き類の光応答メカニズムの解明(農林水産委託プロジェクト平成21～25年)

- \*カスミソウ・トルコギキョウ、ヒマワリ  
への異なる波長光の照射とその影響

.....

農産物価格の低迷が続く、産地の維持には収益性の強化が必要です。競争力の高い新品種の育成やブランド化技術、省力・省エネ・低コスト化や増収技術が特に必要です。本年度の当センター実施課題は県特産の野菜や花き産地の緊急支援課題となっています。

近年は高齢化による耕作面積の減少が顕著になっています。今後の経済環境は不透明ですが、今後の就農者数の激減は明らかで、県農業の衰退以外にも中山間地域での景観や農地の維持、県土の保全等も危惧されます。多面的な機能を持つ農地を維持するための仕組みづくりも早急の課題となっています。

今後も地域を支える方々の将来計画や要望を伺い、地域農業維持のための技術開発を担当させて頂きたいと考えます。

(所長 吉本 均)

### お知らせ

#### 人事異動(平成25年4月1日付け)

転入 新職名	氏名	旧所属名
副所長 兼 育種部長	藤岡唯志	農業試験場
主任研究員	伊藤吉成	果樹園芸課
転出 旧職名	氏名	新所属名
副所長 兼 育種部長	宮本芳樹	農業大学校
主査研究員	島 浩二	日高振興局 農業振興課

#### 和歌山県農業試験場

#### 暖地園芸センターニュース No.43

平成25年7月22日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター  
〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724  
TEL 0738-23-4005  
FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>

(この印刷物は再生紙を使用しております)